



「月とともだちになりたかったきつね」  
 原作・絵 アナヒタ・ティムーリヤー  
 文・あおしまソテツ  
 (グリーンキャット)

ひとりぽっちのさみしいきつねは、空から月をとりました。ともだちになりたくて、料理をつくったり月の絵をかいたり、いろいろなことをしますが月はだまっただままです。(K.Y)



「雲のてんらん会」  
 作・絵 いせひでこ(講談社)  
 様々な雲の一瞬を切り取り、心模様と重ねて美しい絵と言葉で見せてくれる作品。ページをめくるたびに違った雲が現れ、まさに雲の展覧会です。(T.M)



「雪の写真家ベントレー」  
 作 ジャクリン・ブリックス・マーティン  
 絵 メアリー・アゼアリアン  
 訳 千葉茂樹(BL出版)  
 豪雪地帯の小さな村で生まれたベントレー。50年間、顕微鏡写真で雪の結晶をとりつづけ、その美しさや神秘的魅力を世界の人々に伝えた物語。(K.S)

2018.10作成  
 紹介文後の( )は執筆者です。

## 子どもに読んであげたいこの一冊

～いろいろなお天気のおはなし～  
 秋田県子ども読書支援センター支援員お薦めの本

〈およそ0～5歳〉



「かみなりなんてこわくない」  
 ぶん ジェイミー・A. スウェンソン  
 え デイヴィッド・ウォーカー  
 やく ひがしかずこ(岩崎書店)  
 あらしのよる、ぼくはおきにいりの本とくまのフレッドがいればだいじょうぶ。でもかみなりがなると、ぼくのベッドに動物たちが次々やってくる。(S.S)



「てるてるぼうず」  
 作 おぐまこうじ(くもん出版)  
 「天気になあれ」の願いをこめて下げられるてるてるぼうず。そよそよ、もくもく、空の様子やてるてるぼうずの顔からいろいろなお話が生まれます。(Y.Y)



「ぽつぽつぽつ だいじょうぶ？」  
 作・しもかわら ゆみ(講談社)  
 雨がひどくなってきましたよ。でもお気に入りのかさがあれば、どんな雨でも大丈夫!! あなたのかさはどんなかさ?(I.K)

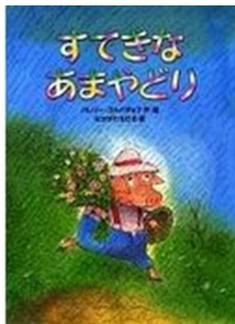
<およそ小学校低学年>



「あめふりうります」  
文・平田昌広  
絵・原案 野村たかあき（講談社）  
ぐうたらねこきちがはじめた“顔を  
あらって雨をふらせる商売”は大評判。  
でもねこきちは…。 (W.J)

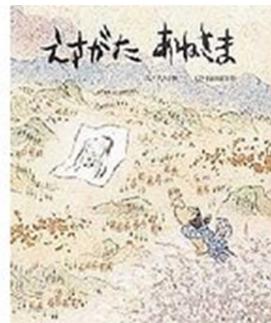


「いいからいいから」  
作・長谷川義史（絵本館）  
ある日の夕方、かみなりがゴロゴロド  
ーン！目の前にかみなりの親子が。おじ  
いちゃんはどうするのかな。おへそはど  
うなるの？ (O.K)



「すてきなあまやどり」  
作・絵 バレリー・ゴルバチョフ  
訳・なかがわちひろ（徳間書店）  
ブタ君はおおきな木の下であまやど  
りをしたというけれど、なぜかびしょぬ  
れです。いったいなにながったのでしょ  
う。 (K.Y)

<およそ小学校高学年>

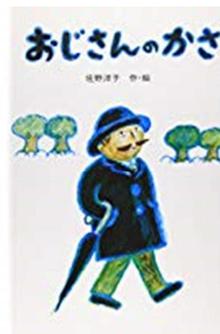


「えすがたあねさま」  
文・大川悦生  
絵・梅田俊作（ポプラ社）  
貧乏なあにさんにきれいなあねさま  
が嫁にきた。みとれてばかりのあにさ  
ん。あねさまの姿をかいた絵を持って仕  
事に出かけた。ところが風に飛ばされて  
絵はお城へ…。 (T.T)



「ゆうかなアイリーン」  
作・ウィリアム・スタイグ  
訳・おがわえつこ（セーラー出版）  
病気のお母さんにかわり、遠いお屋敷  
までドレスを届けに行くアイリーン。し  
かも吹雪の中をたった一人で！ドレス  
はぶじに届けられるでしょうか。  
(S.K)

<一般>



「おじさんのかさ」  
作・絵 佐野洋子（講談社）  
立派なかさをもっているおじさんは、  
雨の日でもひらいたことはありません。  
ところが、ある日ひらいてしまいました。  
そのわけは…。 (K.S)